

大沼排水水路を小川型に

洪谷 町の開発計画、農村整備計画においても排水路は直線、コンクリート張りです。水路の浄化機能、自然に親しむという面から小川型の水路に見直すべきです。大沼排水路の改修計画の方向を開きます。

農政課長 排水路整備事業がおこなわれていますが、地元の要望は管理しやすいコンクリート3面護岸、U字溝です。土側溝だと、草がはえ、崩れやすいためです。

都市計画課長 市街地は公共下水道の区域なので、排水路は雨水排水路となり、浄化機能の必要性は考えられません。市街地の水路は、箱形かヒューム管の暗渠で計画しています。経費の面でも小川型にすると土地の買収面積が多くなり財政的にむずかしい。平沢区画整理事業計画のなかの雨水の遊水池の部分、平沢2区の公園でビオトープや、親水性のある小川型の水路を試みることはできます。

洪谷 ビオトープについての研究会を庁内につくって町の開発計画に備えてください。

町は学童保育の運営に責任を

洪谷 学童保育は公設民営ですが、毎年構成員が変わる父母会に保育料の決定、指導員の確保、指導員の給与、労務保障、待遇新入児童への説明等運営のすべてをまかせるのは、父母に負担が大きすぎます。

保健福祉課長 本年度初めての試みとして、保護者と話し合つて要望を開きます。

洪谷 学童保育の運営を父母会に委託しているのだから、指導員の労災保険、雇用保険の加入を事業者の義務として指導し、事業者負担分は町で負担すべきです。父母会に運営の全部を委託するのは不安定で、指導員には待遇が保障されません。社会福祉協議会に委託することを考えては。

保健福祉課長 保護者と検討したい。社会福祉協議会への委託は現在は社協の体制ができていないので今後の検討課題です。

洪谷 学童保育は、全町で取り組む必要があります。庁内にプロジェクトチームを。

町長 民生委員の主任児童委員も含めて考える。



洪谷 障害を持つ人が家に閉じこもらないで外に出ていく機会を増やす具体的な方法の一つとして社会復帰トレーニングもあります。現在農構センターで行っている社会復帰訓練の今後の改善するところはうかがいます。嵐山町では、月に2回の機能回復訓練を実施していて、そのうち理学療法士による機能訓練は月に1回です。比企郡の市町村の実施状況はどうですか。

保健福祉課長 農構センターでの社会復帰トレーニングは訓練器具が不足しているのですが、固定して使用しなければ危険なので現在の農構センターでは整備できません。床が固いのでクッションフロアのほうがよいと思います。月に2回の訓練のうち1回は理学療法士による機能回復訓練であると1回は保健婦やヘルパーによるものです。貼り絵のような手先の訓練の指導者が必要です。また、家族の方の連絡会を作る必要があります。

比企郡下の機能回復訓練の実施状況は、滑川町が月2回、小川町が週1回、吉見町が週1回、川島町が週1回、鳩山町が

やっとボランティアセンターができる

洪谷 月2回、都畿川村が月1回、玉川村が月1回、東松山市が月4回です。

保健福祉課長 月2回の機能回復訓練を週1回に増やす事はできませんか。また、貼り絵の指導員のような要員は人材バンクを制度化すると解決するのではありませんか。

保健福祉課長 機能回復訓練の参加者に希望を聞いた結果、月2回という希望でした。今後月2回の実施をおこないます。

洪谷 人材バンクは本年度ボランティアセンター設置の申請をしたので、そちらで対応できます。

保健福祉課長 ボランティアセンターが近い将来できるかどうかの可能性になりますか。

保健福祉課長 情報の提供ができます。ボランティアの講座、ボランティアの登録、登録された人の研修ができます。ボランティアセンターの設置で福祉が充実します。

